

岡山の博物館

岡山県博物館協議会会報 No.48 平成27年8月

CONTENTS

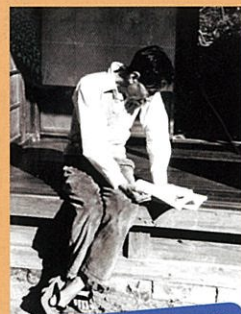
- P1 わが館のイチ押し 勝央美術文学館
- P2 館長随想「奈義MOCAー開館20年を迎えて」(奈義町現代美術館 館長 岸本 和明)
- P3 新規加盟館紹介(児島学生服資料館)／賛助会員
- P4～P5 平成27年度総会報告／記念講演会
- P6 平成26年度 第2回研修会「公共施設のマネージメント」
- P7 加盟館からの便り(川崎医科大学 現代医学教育博物館)
- P8 気になる情報コーナー(岡山カルチャーゾーンの魅力)

わが館のイチ押し

勝央美術文学館 「木のぬくもりのある親しみやすい空間」

勝央美術文学館は、明治から昭和にかけて我が国の芸術文化の一翼をになった勝央町出身の画家や文学者らの仕事を紹介するため、平成16年10月に旧勝央町郷土美術館から移行して新たに開館いたしました。館のコレクションも、旧施設のをベースに現在、約5000点ほどになりました。展示内容は、主にゆかりの画家や文学者の所蔵品をテーマにあわせて展示する常設企画展と、年に数回の特別展からなります。また、町民ギャラリーも併設し、地域の方々の生涯学習の発表の場となっています。建物の特徴は、顕彰作家の木村毅が郷土を想って作った詩の一節「絶景はないが…」と詠われているように、遠く那岐山や泉山を背景に、なだらかな低い丘陵地に囲まれた穏やかな風景にマッチした、平屋の瓦葺屋根に、入口の町民ギャラリーは、隣接図書館とデザインを合わせた集成材の巨大な梁が特徴で、木のぬくもりのある優しいデザインとなっています。常に地域に根差した、親しみやすい施設であることを心がけ日々企画運営に努めています。

カットで紹介した赤堀佐兵作<獅子と鷹>(1959(昭和34)年/キャンバスに油彩/130.5×162.2)は、作者の赤堀が亡くなる約2年前に描いた作品。中東の古い遺跡の壁画のような作品は、彼の一つの到達点とも云えるものです。同じ独立美術の中山巍をして「赤堀を見るとアッシジの聖人フランチェスコを思い出さずにいられなかった。素朴で謙譲なアッシジの聖者が小鳥に説教している風情は赤堀が武威野の寂しい野道に立っている時の感じに似ていたに違いない。」と言わしめた、清らかな光あふれる赤堀らしい一品です。



昭和36年/齋藤紅一宅にて亡くなる少し前



外観



町民ギャラリー1



展示室



獅子と鷹と

館長随想

偶 感 「奈義MOCA - 開館20年を迎えて」

奈義町現代美術館館長
岸本 和明



奈義町現代美術館(以下、奈義MOCA)は、昨年開館20周年を迎えることができました。

1994年4月25日に町の要請を受けた建築家・磯崎新氏は「第3世代の美術館」と位置付け、当時世界初となる常設型現代美術館を奈義の地に誕生させました。その建物の特異な形状から世の注目を集めて県北の僻村に産声を上げたのですが、その評判は毀誉褒貶しました。現在では体感型の美術館の先駆けとして呼称されることが多くなりましたが、月並みな言い方で恐縮ですが、走馬灯のように過ぎ去った日々は思い出に充ち感無量です。

20年の節目を迎えられたということは一重に、地域住民の皆様やファンの方々、理解ある関係者に支えられて迎えられた20年であったと感謝の外ありません。

この美術館のスタートの頃から前後を知る関係者として私一人になってしまいましたが、3年前に新たに学芸員を迎えることができ、re-startを切ったと心機一転しているところです。

その間のアートを取り巻く環境は緩やかに変わっていきました。オープン当初は、人が入らない分野の一つとして挙げられることが多かったのですが、2000年以降になると「人と場所を繋げる観光資源」として重用され注目度を増すようになりました。それまでは、「点」だったアート活動も「線」としての繋がりをみせていき、今ではすっかり「面」として存在感を高め、アート関連のイベントが目白押し。当岡山県でも花盛りの様相を呈しています。そのような時代の変遷にはあらためて驚きますが、微力ながら直接関わることが出来たことは何事にも代えがたい尊い経験だったと誇らしく思い、また生き甲斐の時間でもありました。

時代は移り変わり、わが美術館でも様々な出来事が起こりました。中でも、近年、突出して強く印象に残っている出来事としては、当美術館の象徴的作家である荒川修作氏が2010年5月に急逝され、また彼の制作パートナーであった妻のマドリン・ギンズ氏は2014年1月に、更に8月には宮脇愛子氏を続けて失ったことは痛恨の極みですが、彼らの精神や魂を心に刻み、受け継ぎながら奈義MOCAを更に輝かせるようにサイトスペシフィック・ワークの最初の例になった美術館としての責務を全うするためにも美術館の運営に勤しんでいきたいと心を新た

にしていく所存です。

当美術館を設計した建築家・磯崎新氏が私に発した言葉は自分の中で強く覚悟を決定的にしたものとして20年以上経過した今でも耳底に残っています。

「奈義MOCAは前例がない美術館ですので今は理解されませんが、10年や20年経ったら同じような美術館が増えていくでしょう。その時、時代の先駆けとして注目されますよ。頑張ってください。」

また、先哲者の不撓不屈の精神や生きざま、遺された言葉が、弱い私をどれだけ勇気づけ鼓舞してくれたことか、ここに付記し感謝の意を表します。



展示室「大地」
「うつろひ」1994 ステンレスワイヤー 宮脇愛子
写真：奈義町現代美術館

新規加盟館紹介

児島学生服資料館



【施設概要】

学生服生産量日本一 児島の歴史を伝えることを目的に平成22年11月に開館いたしました。各学生服メーカーのホーロー看板やのぼり、懐かしのアイドルによる販促用ポスターなどを展示しております。また資料館の2階では学生服の試着体験コーナーもございます。

- 【所在地】〒711-0906 岡山県倉敷市児島下の町5-5-3
- 【TEL】0120-144129
- 【URL】<http://www.nipponhifuku.jp/company/museum/>
- 【開館時間】10:00~17:00
- 【休館日】年末年始(12/29~1/4)
- 【交通案内】瀬戸大橋線上の町駅より徒歩約15分
児島循環バス「ふれあい号」琴浦西小学校前下車徒歩2分

◇賛助会員

岡山県博物館協議会賛助会員企業・団体一覧(平成27年7月末現在)

- | | | |
|-------------------|------------------|-------------------|
| ■ 朝日新聞社 岡山総局 | ■ 倉敷木材(株) | ■ (株)トミヤコーポレーション |
| ■ (株)イーオン | ■ (株)クロスカンパニー | ■ 友野印刷(株) |
| ■ (株)岩井工業所 | ■ 坂本工業(株) | ■ トヨタカローラ岡山(株) |
| ■ 医療法人 えんざこ医院 | ■ (株)佐野組 | ■ (株)トンボ |
| ■ (株)大手饅頭伊部屋 | ■ 山陽映画(株) | ■ (株)ナイカイアーキット |
| ■ (株)大本組 | ■ (株)山陽新聞社 | ■ 日本通運(株) 岡山支店 |
| ■ 岡崎共同(株) | ■ 山陽放送(株) | ■ 日本放送協会 岡山放送局 |
| ■ (株)岡山医学検査センター | ■ (株)サンラヴィアン | ■ 蜂谷工業(株) |
| ■ 岡山ガス(株) | ■ シャープタカヤ電子工業(株) | ■ (株)林原 |
| ■ 公益財団法人岡山県郷土文化財団 | ■ (株)成通 | ■ 日生運輸(株) |
| ■ 岡山市農業協同組合 | ■ 全日信販(株) | ■ (株)フジワラテクノアート |
| ■ 岡山大鵬薬品(株) | ■ タカヤ(株) | ■ フルハーブ岡山(株) |
| ■ 岡山放送(株) | ■ (株)田中商会 | ■ (株)ベネッセホールディングス |
| ■ (株)岡山臨港 | ■ (株)中国銀行 | ■ 三友不動産(株) |
| ■ 菅公学生服(株) | ■ 中国建設工業(株) | ■ (株)山田養蜂場本社 |
| ■ (株)菅田 | ■ 東洋砕石工業(株) | ■ 両備ホールディングス(株) |
| ■ (株)キャリアプランニング | ■ (株)トマト銀行 | |



本年度総会が5月21日(木)、岡山県立美術館において開催されました。加盟館78館中57館(委任状24館)、賛助会員を含む51名が参加しました。

次第

■ 会長挨拶 岡山県立美術館長 守安 収

議事

- (1) 新規加盟館について
 - 「児島学生服資料館」
- (2) 平成26年度事業報告について
- (3) 平成26年度収支決算書について
 - 監査報告について
- (4) 役員の変更について
- (5) 平成27年度事業計画について
- (6) 平成27年度収支予算(案)について

以上、すべて承認されました。
- (7) 25周年記念事業について
- (8) 各館提出議題
 - 岡山県立博物館より「展示室内での写真撮影の可否について」
- (9) その他
 - 岡山県立博物館より「岡山カルチャーゾーン創立30周年記念事業の概要について」
 - 岡山県立美術館より「音声ガイド或いは文字ガイドを導入している(或いは導入を検討している)館の状況を伺うアンケート調査の実施について」

- ・事務局より「年会費の値上げについて」
- ★ 役員の変更にあたっては、引き続き各館が役員館を担当します。
- ★ 25周年記念事業については、本年度も有志による検討会をもち、実施案作成にあたりたいと思います。
- ・スタンプラリー／加盟館紹介展示／加盟館職員による連続講座 WSを予定
- ★ 賛助会員の減少、消費税や諸物価の高騰のため、運営が厳しいことから平成28年度から年会費の値上げをお願いします。(別途通知します。)

総会終了後、「元新聞記者のつれづれ岡山文化回顧」と題し、美作大学非常勤講師・元山陽新聞編集局次長坂本昇氏による記念講演会を行いました。



平成27年度事業計画(今後の予定)

■ 研修会

- 第1回目 デジタル化する写真と印刷技術について

日程：平成27年9～10月頃開催
場所：岡山シティミュージアム(予定)
講師：カメラ・印刷機メーカーほか
- 第2回目 文化財の修復について(絵画)

日程：平成28年3月頃開催
場所／講師：未定

■ 普及広報

- ① 岡博協創立25周年記念スタンプラリーの台紙の作成
- ② 会報「岡山の博物館」(No.48・49)の発行
- ③ 加盟館・賛助会員への会員証(優待券)の発行

「元新聞記者のつれづれ岡山文化回顧」

講師 坂本 昇氏(美作大学非常勤講師・元山陽新聞編集局次長)



山陽新聞社に40年近く勤務された坂本昇氏に、取材活動などを通じて体験された事や記者としての心がけなどをお話いただきました。

○ねらい・趣旨

地元紙の山陽新聞社に在籍して40年近く。その大半を編集局で新聞づくりに携わってきた。この間、実に多くの地域、地元の人たちの応援や支援に支えられて、大過なく仕事のできたのは望外の喜びだった。とりわけ文化畑の記者生活が長く、岡山県内外の文化関係者と親しく接触する機会があった。そこで、そうした取材活動や体験を通して垣間見た岡山文化界の周辺について話したい。

○山陽新聞入社のこと

藤原雄先生が抹茶茶碗を視覚障害者協会へ寄贈したという情報を得て、取材に行った。なぜ寄贈したのか聞くと、自分も目が悪くて、同じ境遇の人間が一生懸命作った品を送ることで励みになればと思ったとの事だった。目が不自由という事を公表してもよいと言っていたので、90行の記事にしたが、政治部長の判断で30行になり、写真もなしになった。記事の価値判断について考えさせられた出来事だった。

○文化部時代

パリ在住の赤木画伯が、30年ぶり岡山で初の帰国回顧展を開催した時、取材を通じて図録を作成した。展覧会後の打ち上げの際、赤木画伯からパリに招待されたが固辞し、定年になったらパリに行く約束した。定年後、パリに行き、約束の再会を果たした。

○記者としてのところがけ

- 記者として、4つの行動規範を持っていた。
- ・七分の魂に三分の浮かれ心…取材先の人に対し、義理の欠くことのないようにする一方、少しは砕けた楽しさも心がけておきたい。
- ・武士に二言はない…相手との約束は何かあっても違えない。その上で、できることなら先方に喜ばれるように努力する。
- ・一匹狼…企画班などの特命事項を除き、取材は一人が基本。誰も助けてくれない。

- ・現場主義…取材では必ず現場へ出かけ、直接自分の目と耳で確かめる。
- 古いタイプの記者で、生涯一記者であった。

○地元紙・山陽の歴史と役割

山陽新聞の前身は、山陽新報と中国民報。山陽新報の創刊は大阪の朝日新聞よりも創刊が少しはやい。この事は誇りに思っている。当時政治を論じる新聞を大新聞、一方市井の雑事を載せる新聞を小新聞と大別していたが、山陽新報は中新聞をめざし、地方の文化、産業の交流・発展を編集方針としていた。この方針は現在の山陽新聞にも脈々と受け継がれている。明治30年代には、山陽新報、岡山日報、中国民報が三つ巴の新聞競争を繰り広げていた。40年代以降は、山陽新報と中国民報が競争し、昭和11年に新報と中民が合併して合同新聞となり、昭和23年に山陽新聞という名前となった。

山陽新聞は通算135年以上の歴史を誇り、地域で長く続いてきた新聞である。

○考古学担当時代

1990年代後半は、経済発展に伴い遺跡を記録保存するための緊急発掘調査が右肩上がり、現場は「宝の山」だった。当時は県内初や、西日本で非常に珍しい遺物が出土した際は、記者発表することが暗黙の了解だった。しかし、地元紙としては、記者クラブの発表だけに安住するのではなく、自分で取材をして記事にしたい、という気持ちがあった。こまめに現場に足を運ぶと、独自ダネを得る事ができた。しかし、記者クラブから県の担当者へクレームがあった事により、発掘担当者は警戒し、水面下でのせめぎ合いがあった。この丁々発止のやりとりで、取材の足腰を鍛えられた。

○考古学界の重鎮と、名刺の効能

近藤義郎先生にもお世話になった。吉野ヶ里遺跡の取材をする際、近藤先生にアドバイスをもらいに行ったら、名刺を出しなさいと言われた。自分の名刺を出すと、先生が、その名刺の裏に、先生の友人である旨書いでくださった。その名刺を現地の担当者に見せると、驚くほどスムーズに取材を進める事ができた。また、先生に座談会をお願いした時、あわてて研究室にお迎えに行き、会場までお連れした事もあった。

○反省とお願い

中央に目が向き過ぎていたのではないと思う。地元研究者などと一緒に地元を大切にこそ、地域で誇り、愛される仕事ができるし、そのような新聞を目指したい。皆さんの職場にも様々なタイプの記者が取材で訪問すると思うが、どうか温かい目で見守り、対応してほしい。また、もっと新聞社をはじめとしたメディア媒体を積極的に活用し、情報発信を強化してほしい。そしてお互いの仕事や職場の伝統が次世代に継承されているのか、見返してほしい。

(編集 津山郷土博物館 東万里子)

「公共施設のマネージメント」

日時：平成27年2月25日(水)

場所：華鶴大塚美術館

基調講演：講師 佐々木 陽一 氏 (PHP総研主任研究員)

事例報告：BIZEN中南米美術館／夢二郷土美術館／池田動物園

研修に参加しての感想

平成26年度第2回研修会は、華鶴大塚美術館を会場に「美術館・博物館の魅力アップのためのマネージメント」がテーマで開催されました。

基調講演には、政策シンクタンク PHP 総研から主任研究員・佐々木陽一先生に「施設マネージメントから考えるこれからの美術館・博物館のあり方」と題してお話いただきました。その中で先生は、高度経済成長期につくられた多くの公共施設が今後直面する老朽化にともなう施設の更新問題について言及されました。少子高齢化と先細る財源の中で施設の維持更新にどう備えていくべきかをいくつかの事例と数字を挙げて示され、施設を取り巻く環境や時代の変化を読み取ること、将来を見据えた具体的な指数と目標を示すこと、ニーズとサービスのあり方、管理整備の必要性等を指摘されました。そのお話からは、地域の行く末と未来に公共施設の維持更新は厳しい財政(経済)状況であっても先送りが許されない問題であることを実感し、また、施設の運営・活用には施設の抱える問題を直視し、現状と課題を明らかにすることが重要であることをあらためて強く感じました。

続いて行われた事例発表では、特色ある活動で独自のブランド力を発揮し、お客様満足度も高い、池田動物園、夢二郷土美術館、BIZEN中南米美術館の取り組みが発表されました。私立館は時勢によって活動の振りが大きく制限されることもありますが、そこは「ピンチはチャンス」。時代を読み、リスクにチャレンジした活動の積み重ねが強みとなり、館のブランド力を高め、魅力ある館へと循環させ今日に至っているのだらうと、3館のお話を興味深くお聞きしました。

今回の研修会に参加し、今後も厳しい社会経済状況が続く中で美術館・博物館施設が、施設のあるべき姿を見定めながら、多様化する社会と市民の価値観の多様化にどのような活動やサービスが出来るのかを考える機会になり、見直す機会となりました。

なお、研修会終了後に開かれた懇親会では、佐々木先生、発表者の赤迫氏・小嶋氏・森下氏お三方を交え、事務局、研修会出席諸氏により、さらに熱い論議と意見交換が行われましたことを最後にご報告いたします。

(華鶴大塚美術館 三宅利枝)



加盟館からの便り

川崎医科大学 現代医学教育博物館



外観

川崎医科大学現代医学教育博物館は、川崎医科大学開学10周年記念事業として1981年にオープンしました。現代の医学・医療に関する事柄をわかりやすく展示してある、世界的にも珍しい博物館です。5階建の建物の内、2階、3階、4階が展示室になっています。3階・4階は、医療系の学生や医療従事者の為の自学自習の場となっており、2階展示室は「健康教育博物館」と呼ばれ、一般に無料で公開しています。これまで2階の展示は「生活習慣病」をメインテーマに心臓・血管、消化器、糖尿病、がんなど10の項目に分けた展示を行っていました。2012年からは、来館者の年齢層、職業など幅広い要望に応えるため展示テーマを①基礎医学、②予防医学、③現代病、④高度先進医療の4つのテーマに分けて展示するよう順次更新作業を行っています。現在では、基礎医学と予防医学のテーマについて展示が完成しています。その他にも、社会的に話題となっている医療情報をいち早く取上げて展示するトピックスコーナーや人体パズルなどゲーム感覚で

学習できるコーナー、反射神経、視力、血圧などを調べることができる測定コーナー、さらには、体の中を探検するような、巨大な胃の模型や腸の模型など楽しみながら見学できる展示も多くあり、単に見るだけではなく「触る展示」「動かす展示」など体験的・経験的に学習できる見学者参加型の展示を行っています。

そして、近年では、小・中学生とその保護者を対象とした「かわさき夏の子ども体験教室」の企画イベントを開催したり、さらには、近隣の小・中・高校からの団体見学者に対しては、講話やワークシートを使った体験型学習プログラムを実施するなど子ども達に、医学・医療に関心を持ってもらうための活動を行っています。



胃の巨大模型

開館時間：月曜～金曜 9:00～17:00
土曜・日曜 9:00～16:00
休館日：祝日、学園創立記念日(6月1日)
年末年始(12月29日～1月3日)
入館料：無料
所在地：〒701-0192 岡山県倉敷市松島577
TEL：086-462-1111 FAX：086-464-1127
URL：http://www.kawasaki-m.ac.jp/mm/



展示室全景

岡山カルチャーゾーンの魅力

まだ知らない、
岡山の魅力。

岡山カルチャーゾーン 30周年記念事業 平成27年度企画展
岡山カルチャーゾーンの魅力
 会期：平成27年7月16日(木) - 9月13日(日)
 開館時間：9時 - 18時（開会初日の7月16日のみ10時開館）
 入館料：大人250円、65歳以上120円、高校生以下無料
※会期中に、作品の入札販売を行います。期間：7月18日(木) - 8月13日(日) 後編：8月14日(火) - 9月13日(日)
 ※開催地：ただし、7月20日(水)は休館日。要21日(水)以降開催


 主催 / 岡山県教育委員会 岡山県立博物館 岡山カルチャーゾーン運営協議会
 共催 / 山陽新聞社 山陽放送
 後援 / OHK岡山放送 TSCテレビせとうち RNC西日本放送 KSB瀬戸内放送
 on!ビジョン (北財)岡山県郷土文化財団
 協賛 / (公財)マルゼンスポーツ 文化振興財団

岡山県立博物館
 〒703-8257 岡山市北区後楽園1-5
 TEL 086-272-1149 FAX 086-272-1150

岡山城や岡山後楽園を中心に、多数の文化施設が集まるエリアを岡山カルチャーゾーンと名付けてから、平成27年はちょうど30年になります。岡山県立博物館では、これを記念して企画展「岡山カルチャーゾーンの魅力」を開催し、エリア内の美術館・博物館等から選りすぐりの優品を当館に集めて展示しています。

県立美術館からは、雪舟・宮本武蔵などの水墨画コレクション、夢二郷土美術館からは夢二美人、林原美術館からは国宝の備前刀と大名調度、オリエント美術館からはエジプト・メソポタミアの考古資料、県立図書館からは旧岡山藩の貴重図書、後楽園からは岡山藩主の書、そして天神山文化プラザからは曾我英丘氏の現代書。どれも特徴的で、魅力的な作品が出品されています。あらためて岡山カルチャーゾーンの「特別」を知るとともに、岡山の持つ歴史と文化の厚みを感じます。岡山の文化をもっと県民に伝えたいし、もっと身近なものとして楽しんでもらいたい。そして博物館に足を運んでもらいたい。岡山カルチャーゾーンから岡山県民が気軽に文化に親しむ機運を発信できれば素晴らしいと思います。

岡山県立博物館 竹原伸之

編集後記

会報第48号をお届けします。今年度、加盟館は新規1館を迎え78館となりました。昨年度2回目の研修会では美術館・博物館を取り巻く厳しい現状を確認するとともにそれを打破するための各館の取り組みをご紹介しました。その後の懇親会の雑談から、BIZEN中南米美術館のマスコットペッカーくんが今冬、池田動物園に来園することが決まったようです。本協議会の活動が、加盟館内の連携や交流を促進させる一助となれば嬉しいです。

(事務局) 岡山県立美術館 福富 幸

岡山県博物館協議会会報

岡山博物館

No.48 平成27年8月発行

編集・発行 岡山県博物館協議会

会長 守安 収

事務局

〒700-0814 岡山市北区天神町8-48

岡山県立美術館内

TEL 086-225-4800 FAX 086-224-0648